

時空の漂泊

(二〇〇四年九月十七日 創刊号)

創刊の決意

「大きいファイルを送られてくると往生する」「出先の海外で受信すると止まってしまう」「画面では読めないので紙に打ち出すのだけれど、それでも分量が凄い」こんな類の苦情をしばしばもらうようになっていた。

来年、還暦。小便の切れが悪くなったのは表面的な現象に過ぎず、脳細胞が硬化・萎縮し、「時・場所・場合」(TPO)を弁えない性癖が野蛮に露出するようになってしまったらしい。

こうなると「老人力が付いたなあ」と嘯いているだけではすまない。机の

脇に置いてあるステッパーの上で気が向いたら脚が弱らないようにヒコヒコやっているだけでは駄目だと改めて思い知らされた。

怠惰に流されがちな今の自分に新たに継続的な箍をはめることを決意した。戦略経営研究所として従来の「情報メモ」、「レポート」あるいは「休憩室」(閑談)などの情報とは別に、原則、隔週報の「時空の漂泊」を発行することにした。

話題は、その時々で決めるので定めなければ、様式などは次のように規定する。①冗長にならないように縦書き三段組みのA4で三枚以内とする。②文字は十二ポ、漢字にはなるべくルビを付ける(僕はルビ復活賛

同者である)。③必ず図表や写真を一枚以上入れる。④PDF形式でファイルサイズを軽くして配信する。

なお、期間は五年間、百号まで発行すること目標とする。

普通の社会生活を過ごせるのは数年間と宣告された手術だったにもかかわらず、執刀医が呆れるぐらい、僕はしぶとく二十年間も生きていた。そして先輩、同僚、後輩の訃報を手にする度に、欲張つてはいけなさと自身身を戒めている。だから、この目標が達成できれば僕には万々歳である。

しかも白状すると、この目標達成も自分一人の力では無理で、多くの人の助けを得ようと思っっている。

まだ了解は得ていないけれど、戦略
経営研究所の協力者になって頂いて
いる和田龍児・摂南大学教授、吉田嘉
太郎・千葉大学名誉教授、金出武雄・
カーネギーメロン大学教授、河野
通方・東京大学教授、許斐義信・慶応
大学教授、富沢木実・道都大学教授な
どの諸先生をはじめ、高成田享・朝日
新聞論説委員、井口雅文（弁理士）・
S&I（バンコック）社長、多田幸雄・
サンロック（ワシントン）社長、さら
には友人の作家・杉田望氏や山田厚
史・アエラ編集委員などの諸氏にも友
情出演をお願いするつもりである。

立な一方向として時間をとつた四次
元空間。時空の一点は空間的位置と時
刻により指定される——とある。
「漂泊」とは、（一）一定の住居や
生業なしにあてもなくさまよい歩く
こと。さすらい。「漂泊の旅」「日本中
を漂泊して歩く」（二）流れただよう
こと。船が投錨せず、機関を停止して
ただようこと——とある。
これらの説明から「時空の漂泊」に、
どのようなイメージや期待を描くか
は自由である。ただ、各号で、独断偏
見、唯我独尊を含め、何某かを感じ取
って頂ければ幸いである。
この発行の最終決断を下した場所
はシカゴの老舗のジャズ・クラブ、シ

ヨーケースである。十ドルで秋吉敏子
の演奏を堪能した。客は三十人もいな
い。音がやけにストレートに迫る。超
大型ハリケーンでフロリダの知人は
退避勧告で二週間も自宅に帰れない
でいるというのを聞いた直後、ショ
ケースで僕は音の洪水に襲われ、押し
流されて発行に踏み切った。

（前田勲男）

